カルテ①: 櫛引地域における現況と二一ズの整理 人口動態 公共交通の利用及び収支状況(路線別) バス運行路線図 ○バス路線は6路線あり、地域の北西部で運行している。 ○「中学校~たらのき代」は、市が委託するスクールバスの混乗路線である。 〇人口は概ね横ばいである。 ○どの路線も乗車密度が0.9~1.57人と低い。 〇一方、高齢化率は増加傾向である。 〇人口の約70%を占める65歳未満のうち、頻度の高い外出目的は「通勤・通学」が 22.0%で最も多く、次いで「買い物」が8.0%となっている。 (0) ■ 運行回数 6.0 5.0 (人) (%) 1.8 → 補助算定乗車密度 5.0 ◆人口3区分 10,000 1.6 4.0 4.0 及び高齢化率 9,000 8.742 45 1.4 8,536 4.0 1.2 8,000 40 の推移 3.0 7,000 35 0.8 65歳以上 6,000 2.0 30 0.6 5 000 25 0.4 1.0 0.2 4.000 20 0.0 ---高齢比率 3.000 15 2,000 10 1,000 ■■公費負担計 ■ 公費負担額込みの損益 → 公費負担込みの収支比率 (千円) 13.202 12,728 14,000 140.0% 12.246 H17 H12 (41) 12,000 120.0% 99.4% 100.0% 91.5% 10,000 100.0% ■ 通勤·通学 ◆頻度の高い 22.09 8,000 80.0% 5937 外出目的の割合 5,366 6,000 60.0% ■買い物 4,000 40.0% ■通院 20.0% 2,000 0.0% 8.0% ■娯楽 路線バス (あさひ交通) -2,000 -20.0% -1,554 大鳥線·上田沢線 (26,27) -1,889 -1,995 -4.000 -40 n% ■その他 田麦俣線・湯殿山線(28) 68.0% 2.0% 上松根線·朝日庁舎線(30,31) ■不明 路線バス(スクールバス混乗) たらのき代線(41) スクールバス N = 50* 櫛引中学校 (資料:H22市民意向調査(65歳未満) 住民ニーズ(市民アンケート調査結果) 主な目的施設と公共交通空白区域図 地域内の人の動き ○現状の路線バスの路線網は主な施設を通るように運行されている。 〇通勤・通学、買い物、通院において、鶴岡地域と櫛引地域が主な行先となっている。 ○路線バスに対する不満点は、「利用したい行先や時間帯にバスが運行していない」「自宅からバス停が遠い」が 〇人口が分布している上で公共交通空白区域となっているのは地域の北部に位置し 20.0%となっている。 ている。 〇一方、「バスを利用しないので分からない」が40.0%と最も多く、路線バスの利用率は低い。 〇今後のあり方については、65歳未満と65歳以上で「現状なみの負担で、現在の公共交通を維持する」が最も多 くなっている。 ◆路線バスに対する不満点 ◆路線バスの今後のあり方について ≪通勤・通学≫ 16.0% 各線や運賃がわかりに 自宅からバス停が遠い 市の負担を増やしてでも、公 羽里 6.0% 共交通を今以上に充実する 現状なみの負担で、現在の 公共交通を維持する 公共交通の縮小もやむを得 ≪買い物≫ ない その他 46.0% 22.0% バス停を利用するときに交通安全上の危 険を感じる MA=86 N=11 パスを利用しないのでわからない N=50 ◆路線バスに対する改善要望 (資料:H22市民意向調査(65歳未満) 『行ルートの見直し(分かりやすく、行きた Nと思うところを通るなど) ≪通院≫ 外出する時間帯の便数の増加 26.3% ベス停の改善(位置の変更・箇所の増加、 N=1 市の負担を増やしてでも、公 バスの乗り継ぎを良くする 共交通を今以上に充実する ■現状なみの負担で、現在の JRやバスとの乗り継ぎ割引など、お得で 簡単な運賃設定 公共交通を維持する 事前予約制による、路線や時間を気にせ ず利用できるデマンド型運行の導入 公共交通の縮小もやむを得 31.3% ない をい その他 高齢者向けの車両の導入(乗り降りしやすい床の低いバスの導入など) ■不明 26.3% 商業施設 路線パスは利用しない ○ 高校 ☆ 観光施設 (資料:H22市民意向調査(65歳未満)) (資料:H22市民意向調査(65歳以上)) (資料: H22市民意向調査(65歳以上)) 34

カルテ②: 櫛引地域における課題の解決に向けた方針と対策

問題点•課題

【問題点】 既存バス路線運行時間や、バス停の位置が利用者の希望に沿っておらず、また住民のバス利用の 意識が低いことから、利用者が少ない状況となっている。

【課題】現在運行している"バス"の運行形態や使い方を再整理し、効率的な運行形態に変える必要がある。 また、地域住民や施設利用者が、利用したい(できる)バスを、円滑に利用できるよう案内する。

「たらのき代線」は、庄内交通との接続において長い距離を歩いて乗り継がなくてはならない状況となっている。

【問題点】 地域の高校生の減少等に伴い、バス利用者の確保が困難な状況となっている。

【課題】バス運行を効率化し、利便性を高め、通学以外でも地域住民の日常生活および地域の施設利用者等 、よりバスを使ってもらいやすい環境をつくる必要がある。

- 櫛引地域内の人口は、市内他地域と同様、年々減少傾向となっている。
- 地域内には、大きな病院拠点を有しており、それら施設への利用の可能性が考えられる。

【問題点】 地域住民は、マイカーへ依存をしている状況にある。

【課 題】バス停が最寄りにあるにも係わらず、「利用したことがない、利用の仕方を知らない」等の住民が 多いため、公共交通のPRを強化し、公共交通の利用促進を図る必要がある。

- 地域内は、マイカー利用が多く、公共交通が未活用の状況にある。
- 住民の中には、最寄りにバス停が設置され、バスが利用可能にも係わらず、バス利用経験が殆ど無く、認知度 も低い状況にある。

対策方針(案)

方針① 既存公共交通体系の見直し

■ 既存バス交通体系の見直し

・現在、運行している、民営バス、市営バスなどを、地域の公共交通として総合的に捉え、効率的で利便性が 高まる運行形態に見直しを図る。

■ 新たな交通システムの導入検証

・バス路線から離れた地区など、まとまった集落において、地域主導による、デマンド型の新たな交通システムの 導入の必要性を検証する。

方針② まちづくりとバスの連携

■ 地域とのタイアップ

・地域住民の日常的なバス利用のほか、地域の病院施設や商業施設などを訪れる地域内外の来訪者がバスを活用できるような、地域内での仕組みを構築する。

方針③ 公共交通利用に対する市民意識の醸成

■ バス利用促進に向けたPR

・地域住民が、毎日の通勤・通学や買い物、通院など、様々な目的でバスを利用できるような啓発を行う。

対策メニュー(案)

■既存バス交通体系の見直し・新たな交通システムの導入

〇メニュー1:「鶴岡一大鳥・上田沢・田麦俣」線の幹線バス化、乗り継ぎ拠点の改善による市営バス利便性向上。

〇メニュー2: スクールバス路線の延長の検討。

○メニュー3: バス路線空白地域(田代地区など)における、新たな交通システムの必要性の検証。

■地域とのタイアップ・バス利用促進に向けたPR

○メニュー4: 櫛引区長会、地域住民、学校、病院施設、地元商店街などとの連携による、地域一帯となったバス利用の促進。

○メニュー5: 通勤・通学、通院、買い物等の住民需要のバス利用促進、需要の掘りおこし。

〇メニュー6: 地域住民のバス利用を促す、モビリティ・マネジメント(MM)の実施。

